

大和家祀

五

□ 12
2941
5



大和家礼之卷目錄

中一 朝夕奠奠念とと海

中二 帛并奠罍乃事

中三 他國ノ居テ親ノ喪とや祭ノ海

付喪礼ノ例ノ事

治葬ノ事

中四 啓期と告ふ事

中五 奠拭と事

中六 后と事

中七 所福と事

中八 徳石と事

去五味均平蔵



中十 明忌下帳巻背覽大輦翼と他

中十一 神主功布と他

中十二 柩と巻一衫と朝一奠購と

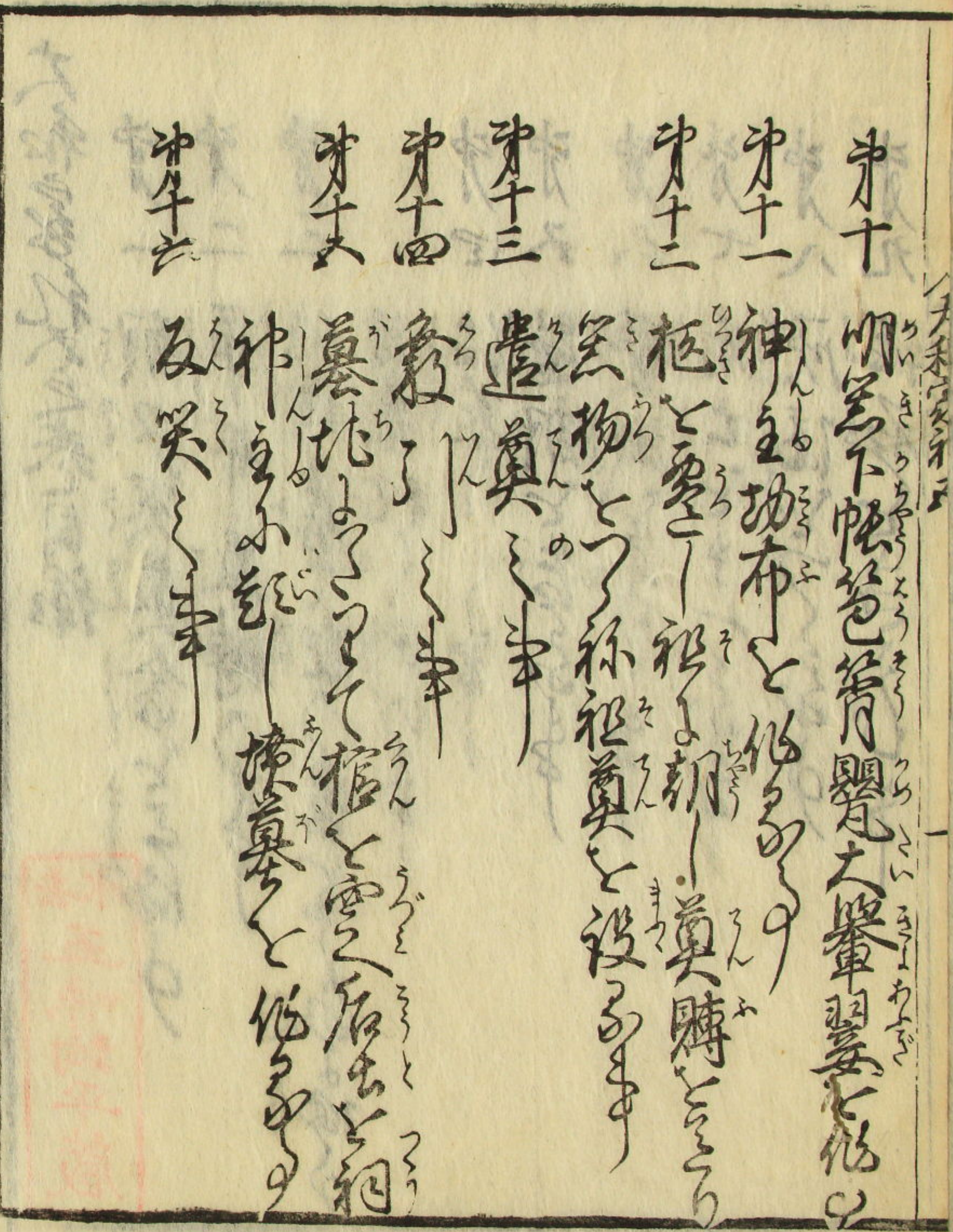
中十三 笑物とつね祀奠と殺

中十四 殺

中十五 墓地とつと柩と巻之盾と細

中十六 神主小紙と撰奠と他

中十七 反笑と事



大和家礼之巻

中一 初夕奠奠食と事

中二 一凡奠は白と事の是物とつらひて全

中三 とらりてあふ事物とはりらめつて

中四 初奠はつやは毎日とやくた事と侍名

中五 手あひ積事との敷又存生乃と事

中六 一のたも巻休の事と事

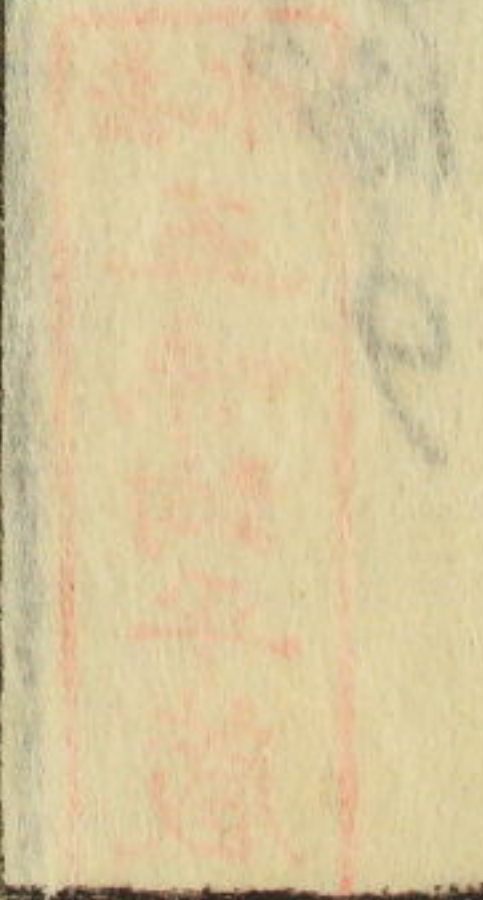
中七 半乃の巻菓子と事茶酒巻と事

中八 お身のらよと事あつて執事の巻

中九 お身印と事かたて巻乃ひと事

中十 初夕奠すま事朝ハ陽と事

大和家礼



伸一り多付を親とあふゆへなり。初奠とそ
ありと死ハ。此ヲ初奠とす。又奠とそあ
多付は。と初ノ奠とす。修物おとそみか
單巾たん中ちゆうそああり。月つき比ひさるハ。膳ぜん
志しづくもとて。考かへつる物中ぶつちゆうは。さくならぬ
よ。ちやく膳ぜんのとり。茶酒菓子ちやくしゆのさひを
さまう。使しとさ。主人しゆじん下した向むかひの喪さう振びを
振びして。丹にとほさ。みか笑わらて。喪さうとたじ。
侍しやくと豊ほう休きゆうつと。祝しゆ帛ぼくととりか。ま
とあひ。若わとた。酒しゆとそ。主人しゆじん茶ちやくとそ
あて礼れいね。ちあり。又あは。くは。修物しゆぶつか

初しゆ奠でんは。合あひ付つは。合あひとた。まら。也や概がい事じ乃の表あひ
初しゆ奠でんの修物しゆぶつとす。主人しゆじん下した向むかひとそ。喪さう
振びとあ。て。喪さう少せうと。喪さうとあ。侍しやくとあ。若わ
あひ。若わとた。酒しゆとそ。主人しゆじん茶ちやくとそ。あて
礼れいね。れり。又あのお。くは。修物しゆぶつと。單たん
巾ちゆう中ちゆうそああり。け。月つき比ひさるハ。膳ぜんのとり
志しづくもとて。考かへつる物中ぶつちゆうは。さくならぬ
よ。ちやく膳ぜんのとり。茶酒菓子ちやくしゆのさひを
さまう。使しとさ。主人しゆじん下した向むかひの喪さう振びを
振びして。丹にとほさ。みか笑わらて。喪さうとたじ。
侍しやくと豊ほう休きゆうつと。祝しゆ帛ぼくととりか。ま
とあひ。若わとた。酒しゆとそ。主人しゆじん茶ちやくとそ
あて礼れいね。ちあり。又あは。くは。修物しゆぶつか

六段礼

三

魂糸と休つてふ並程との休つて下中を
 とも物あぐとささるるたあうりきとらたぐい
 とさうけさあり物々此る突とあましけ
 まらつたあゝ哀のうりやとさあ突すり也朝日
 中は朝真のくれ機とさぬけ日ゆえとさ
 ねさる菓子酒菜のさひとさぬくま今
 妻程とさうり産まうとさぬとあけ免糸
 とさああやとさぬたうりささぬとあけ免糸
 とたさ酒菜とさぬてれぬれりつてのら
 たりつてく休物とさぬ申とさぬさり也
 してぬ穀とさぬ菓子節菜のたぐいああよ

所じとらつたあうりやとさぬたの
 早にたうりつてさぬぬはる也
 中二局并真贈とさま
 一とささうつひのゆとれ乃衣程人の多程さ
 かつひ何さぬよとさぬあうりささるこれ少程
 ねすうありとさぬ真中は菜種物酒菓子と
 とさうり贈中は全報後とさぬさうり真
 贈とさあはとさぬ世れ香真のくありさけい
 中とさあは全報の彰と贈とさひとさぬ菓子種
 物乃彰と真とさあはとけうてさうり或は
 自分とらつて紗也とさうりぬ人本家付は

後妻のまゝ主人の者あはれまゝ人下向の妻
 服と作して。存よまゝ哭して。さうぬ人の内
 へ入るまのこゝ。後妻のまゝあはれまゝぬれ
 えて肉入あやさうぬ今うらまえて。まづあはれ
 のあはれひい。あはれあはれ。あはれ。あはれ。
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 杖よすうりあはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 らあま主人のまゝ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 とす。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 人まゝ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 まり。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

へあ。後妻のまゝ主人の者あはれまゝ人下向の妻
 てあはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 もあはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 ま酒とまゝ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 眞贖とまゝ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 えまゝ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

才三 後妻のまゝ主人の者あはれまゝ人下向の妻
 一後妻のまゝ主人の者あはれまゝ人下向の妻
 こはあはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
 いあ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

て髪とらうらむ竹のめいけりともふも也。種妻の
 人の祖免とすあり。祖免とは志ろと衣指を
 着くとも衣指とあきけり。布とすけり。めいけりとも
 ひまやぶとす。妻とす。めいけりとも。種妻と
 す。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 位乃ひけり。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 おそく笑する也。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 あり。決りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 いまも。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 らひとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 主人名代りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と

ありとも。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 あり。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 とれい。主人とも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 いまも。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 ありとも。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 て。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 ありとも。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 一。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 笑。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 花。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と
 あり。種妻と成りとも。めいけりとも。種妻とす。めいけりとも。種妻と

功の妻ハ。我。家。乃。門。と。る。け。と。哭。し。由。功。の
 妻。し。り。下。我。家。乃。門。と。入。て。哭。と。は。ら。の。ら
 とも。家。と。入。て。し。つ。さ。り。あ。り。り。と。も。て。哭。し。言
 目。妻。和。と。あ。く。と。言。と。は。ら。の。哭。す。ら。り。
 あり。む。り。の。ら。と。ら。の。い。に。齊。妻。の。妻。ハ。百。れ
 召。却。夕。在。と。ら。と。ら。と。哭。し。て。言。目。乃。の。妻
 和。と。あ。く。と。は。あり。每。月。朔。日。と。言。と。言。と
 哭。し。て。妻。の。月。敷。と。ら。に。満。て。い。づ。と。の。月。の。朔
 日。と。又。産。と。ら。と。哭。し。て。妻。と。言。と。あ
 利。

妻礼之例

一曲禮篇よとけるは妻の主人とららぐとあり
 いらふらぬ。と。我。を。あ。ん。と。ら。ら。ぐ。と。あ。く。結。ゆ
 と。と。妻。の。主。人。と。ら。ら。ぐ。と。我。を。あ。ん。と。ら。ら
 ぐ。時。に。あ。く。ひ。づ。ら。い。ひ。づ。ら。い。ま。し。び。親。を
 め。る。ま。し。と。我。を。あ。ん。と。ら。ら。ぐ。と。妻。の。主。人。と
 あり。と。ら。の。結。ゆ。と。な。し。と。主。人。の。あ。く。と。あ
 ら。ま。し。と。と。ら。ら。ぐ。と。と。ら。ら。ぐ。と。あ。く。ひ。の
 とも。ひ。あ。く。も。な。し。と。し。時。は。返。後。よ。あ。く
 と。の。あ。く。あ。く。と。

一 檀弓の論よとけるは。とららぐひる日の礼。新婦

家よまじりてくぐりて又海の中の魚肉をば
くらふべからばとて。又人死してあつたるもの
をらり。一ものはあつたる自害とす。あつたる
弊よ身となげく死をばあつたはらふらん。二
くはあつたるは岩を又くくもつては薬
地の下をむに居て磨りて死をらる
どはらつたるは。大海のうらむとて死を
ふらとてはらつたるは。死をらつたる
命をあらば。殺しめく死をばあつた。
ちあつたるは。死をらつたるは。死を
はらつたるは。死をらつたるは。死を

大和歌集

十

家よまじりてくぐりて又海の中の魚肉をば
くらふべからばとて。又人死してあつたるもの
をらり。一ものはあつたる自害とす。あつたる
弊よ身となげく死をばあつたはらふらん。二
くはあつたるは岩を又くくもつては薬
地の下をむに居て磨りて死をらる
どはらつたるは。大海のうらむとて死を
ふらとてはらつたるは。死をらつたる
命をあらば。殺しめく死をばあつた。
ちあつたるは。死をらつたるは。死を
はらつたるは。死をらつたるは。死を

大和歌集

十

おとへしとちり。

一 少儀每小きけるは我ありき人の妻とさめぬ
 うへもき人約夕真乃とれ笑すもあやう
 ようつひて笑やじとれいさうつぬぐうは
 どのこのさうらハ相又笑とらおやうさうさ
 臨対しき人笑とかなゆよ。それありとの心
 一 論終よとけるはむづの心さうさ。さうらと
 とさしていさうつぬぐうとさうら。けちんはさうら
 衣裳うしてさうつぬぐうとさうさ。 右布一
 一 乙羊侍よとけるはさう車と結らと贈らうし。合結
 と結らと贈らと。衣裳乃とさうと結らと結らとさう。

一 穀梁伯小きけるは。おと結らと合とさう。

一 檀弓每よとけるハ孔子衛乃國へ約たさう時
 了。ありたさうさ人死さう。もあや入て笑して
 せさまひ子前とらさ弟弟子よおほさうけら
 ねく。車とむくるとおと結らとさうさ。贈喪
 一 喪少礼每よとけるハ男子ハ父母あびよ。結願
 乃たさう。誓願と。婦人ハまと結願乃たさ
 誓願とさう。誓願ハ人よれとさう。さう。

一 奇妻每中けるは。地さうと親の妻とさう時

あり。名祖乃墓地あり。まかすつよらうひ方て
あり。地形せつて。まゆまげある。あな。列。地を
え。あ。い。ま。也。治。葬。一。は。葬。と。ほ。り。ま。り。は
と。つ。あり。程。子。乃。の。家。の。宅。兆。と。い。ふ。ま。ま。は
葬。家。地。乃。吾。也。と。い。ふ。ま。ま。也。臨。海。神。乃
之。家。乃。福。の。程。と。い。ふ。地。乃。と。い。ふ。ま。ま。
名。乃。神。宅。安。撫。あり。て。そ。乃。子。孫。も。繁。昌。
す。ま。ま。の。程。は。接。ぐ。村。家。の。ま。げ。ま。り。と
く。地。乃。あり。と。い。ふ。ま。ま。の。あ。つ。ま。あ。い。地。の
う。ま。ま。は。ま。乃。の。ま。い。り。り。あり。て。ま。ま。
一。の。ま。げ。は。ま。ま。の。あり。程。子。元。身。同。氣。

なり。ゆ。ま。ま。の。あり。り。り。死。安。撫。なり。と。い。ふ。
子。孫。を。安。撫。あり。死。あり。や。ま。ま。と。い。ふ。ま。ま。
わ。や。う。ま。ま。の。乃。乃。理。也。ま。ま。の。地。乃。乃。
信。と。ま。ま。の。日。の。吉。也。と。い。ふ。ま。ま。の。た。め。
あ。は。ま。ま。の。て。子。孫。乃。た。ま。と。中。一。と。す。り。あり。
それ。の。子。乃。乃。あり。と。い。ふ。ま。ま。の。た。ま。の。ま。ま。
は。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
あり。城。郭。と。あり。海。地。と。あり。高。位。乃。人。あり。
り。ま。ま。の。地。と。あり。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。
福。と。い。ふ。ま。ま。の。て。葬。家。乃。ま。ま。の。ま。ま。
す。又。啓。期。と。い。ふ。ま。ま。

一 啓^{ケイ}録^{ロク}とは瑣^ソ一^ツとさうは擯^ヒとわりつてさうの
ありとうひるへき地定^チふらたは黄^{ワウ}日^{ジツ}の啓^{ケイ}
期^キとせんともゆゆと親^{シン}親^{シン}朋友^{トウバウ}の葬^{サウ}礼^{レイ}よき
べきものゝまはげなる也

才六 葬^{サウ}域^{イク}と用^{ヨウ}く事^{コト}

一 葬^{サウ}域^{イク}といふことは葬^{サウ}の付^{ツケ}擯^ヒとわりつてあはれ
かぶりやふねと家^{ケン}擯^ヒともいふ也。喪^{サウ}の事^{コト}を
哭^クたりりて擯^ヒ事^{コト}の事^{コト}とつきてさういふ
とらるる地^チよきことあはれとわすらふまらぬ
とつきてさういふ事^{コト}と外^{ガイ}はあはれと
さういふ事^{コト}と中^{チュウ}はあはれとわすら
さういふ事^{コト}と中^{チュウ}はあはれとわすら

一 葬^{サウ}域^{イク}といふことは葬^{サウ}の付^{ツケ}擯^ヒとわりつてあはれ
かぶりやふねと家^{ケン}擯^ヒともいふ也。喪^{サウ}の事^{コト}を
哭^クたりりて擯^ヒ事^{コト}の事^{コト}とつきてさういふ
とらるる地^チよきことあはれとわすらふまらぬ
とつきてさういふ事^{コト}と外^{ガイ}はあはれと
さういふ事^{コト}と中^{チュウ}はあはれとわすら
さういふ事^{コト}と中^{チュウ}はあはれとわすら

并七 后^{コウ}云^{ウン}と相^{サウ}ふ事^{コト}

一 后^{コウ}云^{ウン}といふは地^チ神^{シン}と相^{サウ}ふ事^{コト}也。意^イを
おさへて朋友^{トウバウ}の中^{ナカ}と一人^{ヒト}ありて。素^ソ指^シと
て。后^{コウ}云^{ウン}といふは地^チ神^{シン}と相^{サウ}ふ事^{コト}也。意^イを
おさへて朋友^{トウバウ}の中^{ナカ}と一人^{ヒト}ありて。素^ソ指^シと

神の存を撰乃中標乃ら苗ひきたまひけ
て。まゝあは酒ほらうとまきとつて孫又たぬ
持とまゝあは酒のあつてありびぐの神は若
志のまゝあは酒は西は執事まらふとあ
ぬと酒也まらふ若系而乃存をいふまを若
志あひひは執事のま二一人とつてあは
むらひれぬ一もあひひて若系乃あはつて
まひひまらうとまきとたきて執事のま一人
酒はとらりてあはひひにむきあつて一人の意
そりてひぐまはひひにむきあつて一人の意
はとらり酒とあはひひにむきあつて一人の意

比りあはひてまらふ酒とらりて神乃
存のあはひとまらふ酒とらりて神乃
存とすまらふ

維

○ ○ 幾年歳次于支来月于支朝幾日
于支某官姓某昭昭乎
古地之神今為某昭昭乎
神其係依伴云後報禮以法酌脯醢
禮薦于神尚饗

廿八 居海とつてあは

十一

一 灰ははは灰の中に入りふ板とまきとちとけ
 とあけ。石灰と入て塔の中とくむびりまき也。そ
 かもまきやうの先炭乃粉と塔乃底よまきた、
 まうけまきあつまきすあして。まき石灰砂黄
 土乃と色とのまあまき炭乃粉のまよまきあり
 石灰とまきまきあつまきまきとのまきまき色を
 篩りてまきまきひりまきまきまきまきまきまき
 してつまあまきまきまきまきまきまきまきまき
 薄板二枚つ板乃ひらまきまきまきまきまきまき
 て板乃初まきまきまきまきまきまきまきまき
 と入てつままきまきまきまきまきまきまきまき

くはまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 とまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 入まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 つままきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 板とまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 一 通りとまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 久しうまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 絨あつまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

中九 徳石と刻

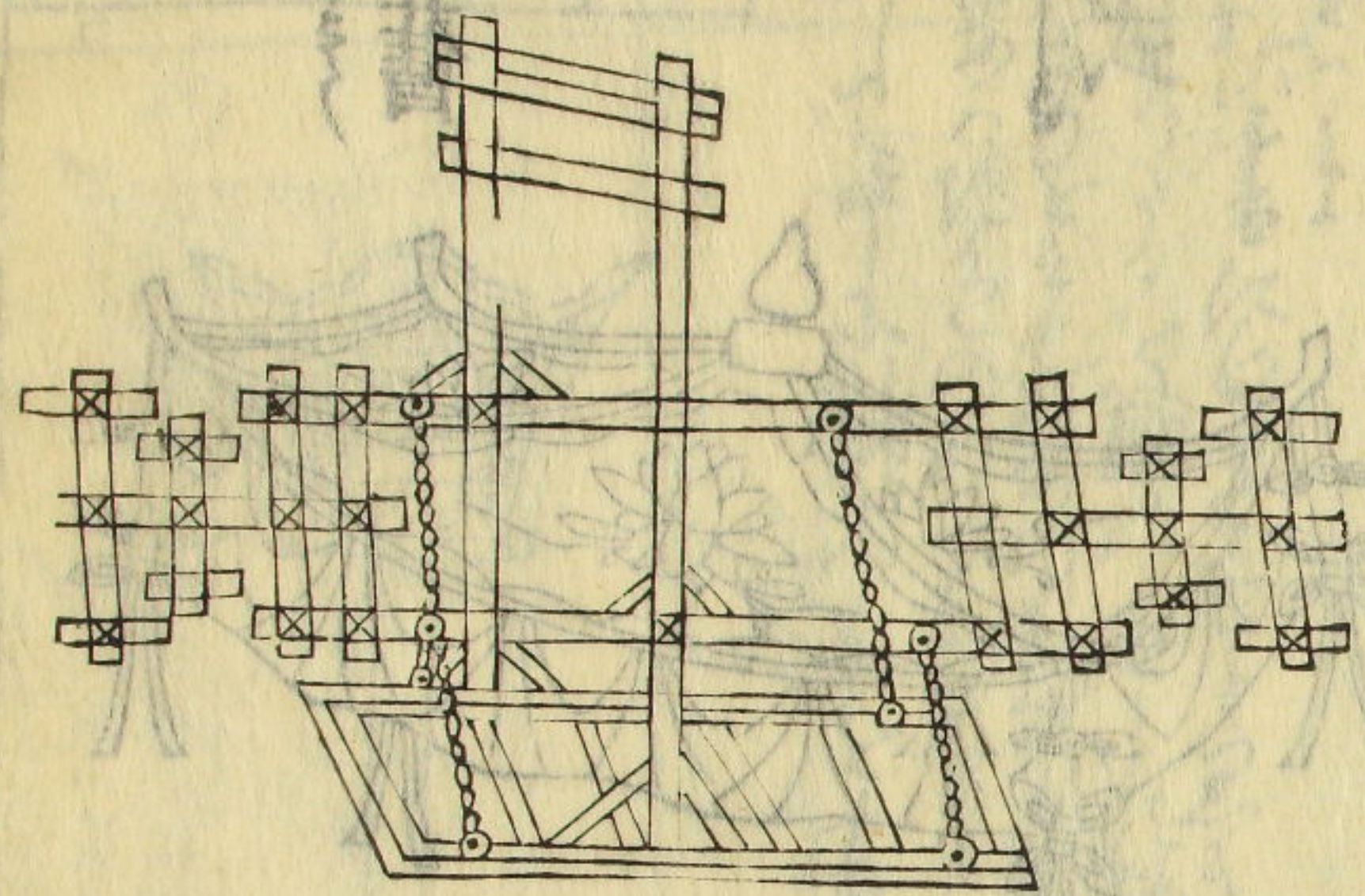
一徳石とは石二枚より成るゆへにの名を子安徳と
ありては徳乃ちありまうらむ也。一枚ハ蓋あり。
一枚ハ底ありて蓋の裏には何代官名をた
がの基とあるも也。座乃ちおして中は官の
圍石。石乃父の官名母の氏ありは何年
何月何日にしりまきてありしなりと刻しは
て何乃年何月何日ふ死し何乃里よ葬む
年ハ何年某某ハなありし女男子ハ何の
あり何の官女ハ何乃某乃一よありしと徳
あり場人ハ何れ官某乃人某氏の妻なり墓と

あるも也。夫を生乃時は某の人と書。夫れを
多枚ありハ某乃とま。葬れ日ふりしを
二枚の石字の面と合して徳和して云也。を
くありしを。擴乃ありは。其乃地形ありし
官人下よ記あり。は徳石と云ひし。は石
うつらありし。夫ハ人乃た。夫ハありし。夫ハ
徳石乃の時。夫ハ石乃姓名とありて。も
ありし。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。
第十 明下帳号簿。大譽。大譽。大譽。大譽。大譽。
一由。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。
て。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。夫ハ石乃の。

乃飛りまはらひのうきとゆ也。明忌まはらひの
 のあるまじ也。下帳とは林帳、茵席、椅子、卓の
 たりと云ふ。ねとあつた先つらとて、平坐、用ゆる
 ちと云はらひのうきとゆ也。是は行乃足物也。是
 と云ふ物なり。是等乃ありての真あるは、若者を
 入家もの也。箆とは、まて行乃足物なり。これと
 むつ物なり。又穀と云ふは、入家也。嬰とは、酒を
 と入家もの也。これと云ふものあり也。明忌、これ
 いかんもて乃るなり。楯と楯、まうつじと云ふ。
 楯乃こころは、楯兒とありて、入家、楯乃こころ
 申すは、入家と云ふなり。入家也。申す之云は、これなり。

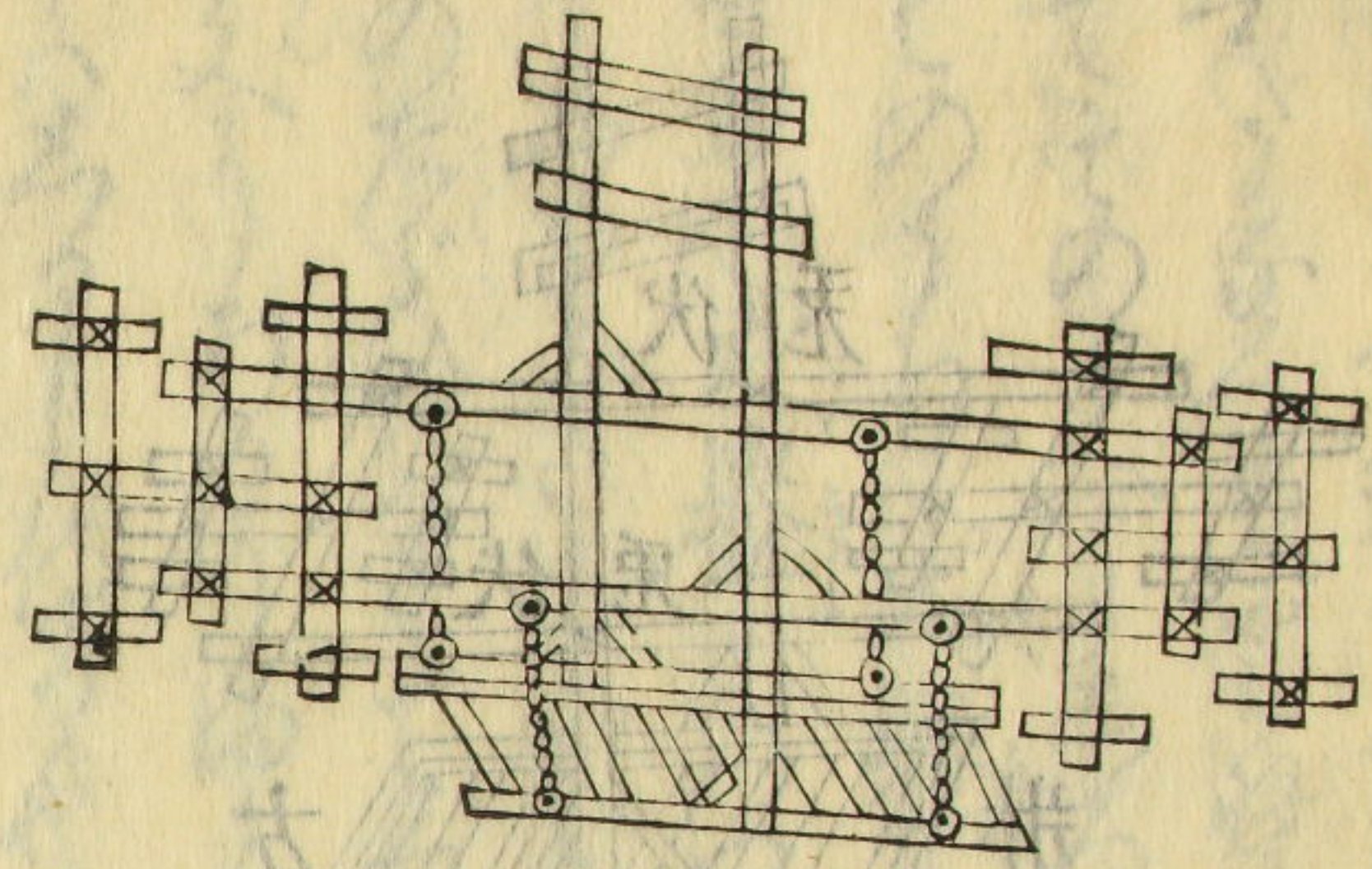
いふ乃るなり。いふ乃る我親とありつら。此
 一と云ふは、まじと云ふものありゆ。ゆより
 ゆと云ふは、結をたのりて、いふものあり。ゆを
 うきと云ふは、いふなり。ゆは、あり。ゆは、ま
 あり。ゆは、いふなり。ゆは、いふなり。ゆは、いふなり。
 右乃るなり。形と云ふは、いふなり。若くは、穀なり。と
 あり。まじと云ふは、いふなり。のれ、まじと云ふなり。ま
 寄り、いふなり。まじと云ふは、いふなり。大樂、まじと云ふ
 楯と云ふは、いふなり。ゆは、いふなり。若くは、いふなり。
 二尺、柄の長と云ふは、圓、いふなり。輔、散と云ふなり。

新製遠行の輦圖



此の輦は、前記の如く、尾と前との間に、
 たるふ處に、繩を、一ノノビ守り、りて、繩を、
 下に、掛、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 八、八、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、
 つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
 繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、
 八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、
 せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、
 右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
 繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

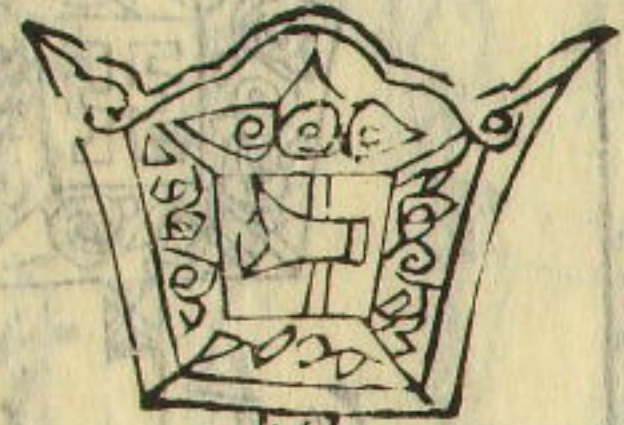
大輦の新圖



この輦は、前記の如く、尾と前との間に、
 たるふ處に、繩を、一ノノビ守り、りて、繩を、
 下に、掛、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 八、八、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、
 つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
 繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、
 八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、八、
 せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、せ、
 右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
 繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、繩、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
 と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

大和家

翹 舖



圓柱の書は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと

大和家礼文

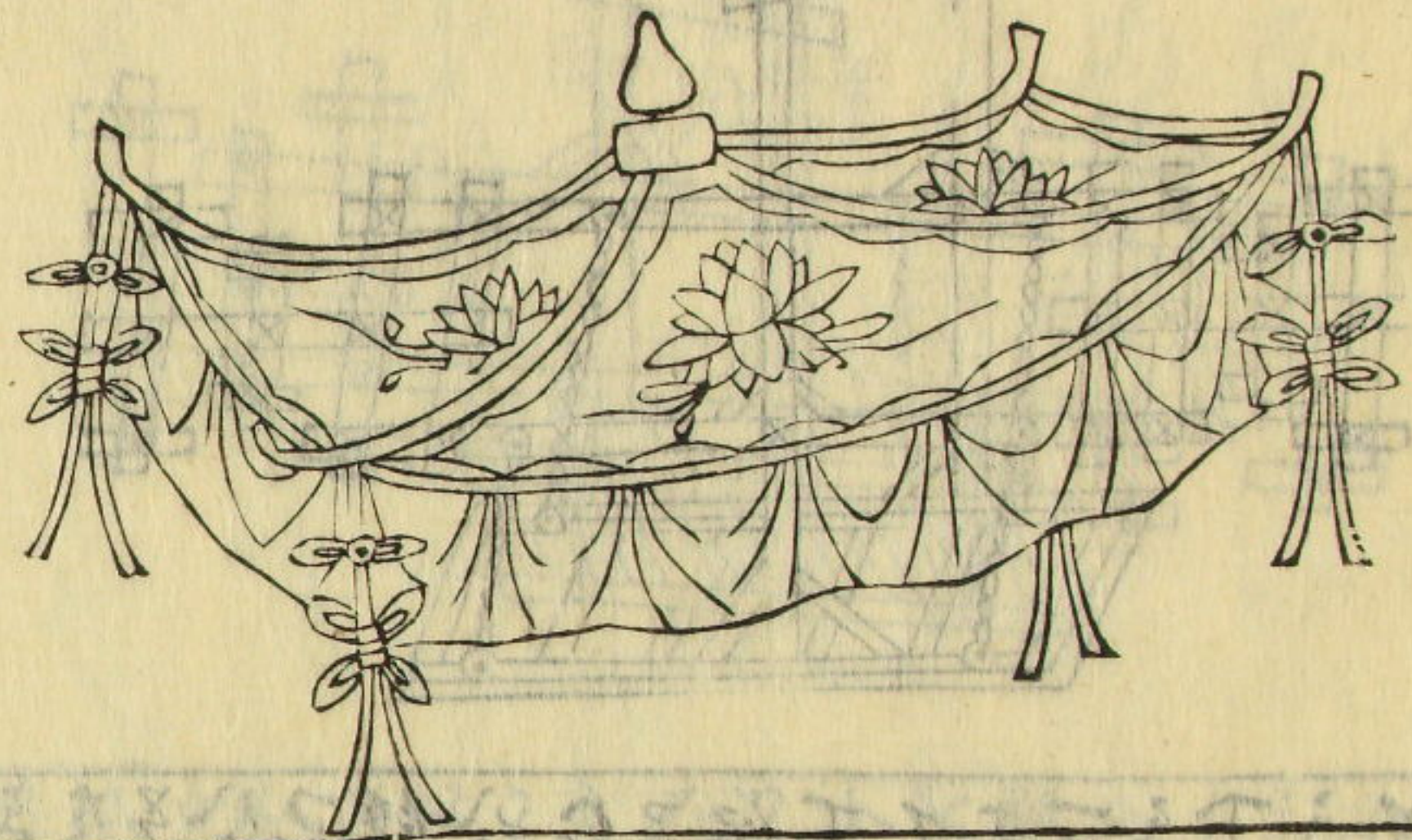
二十一

翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと
 翹の形は白と色とを思ふと

式 格 竹

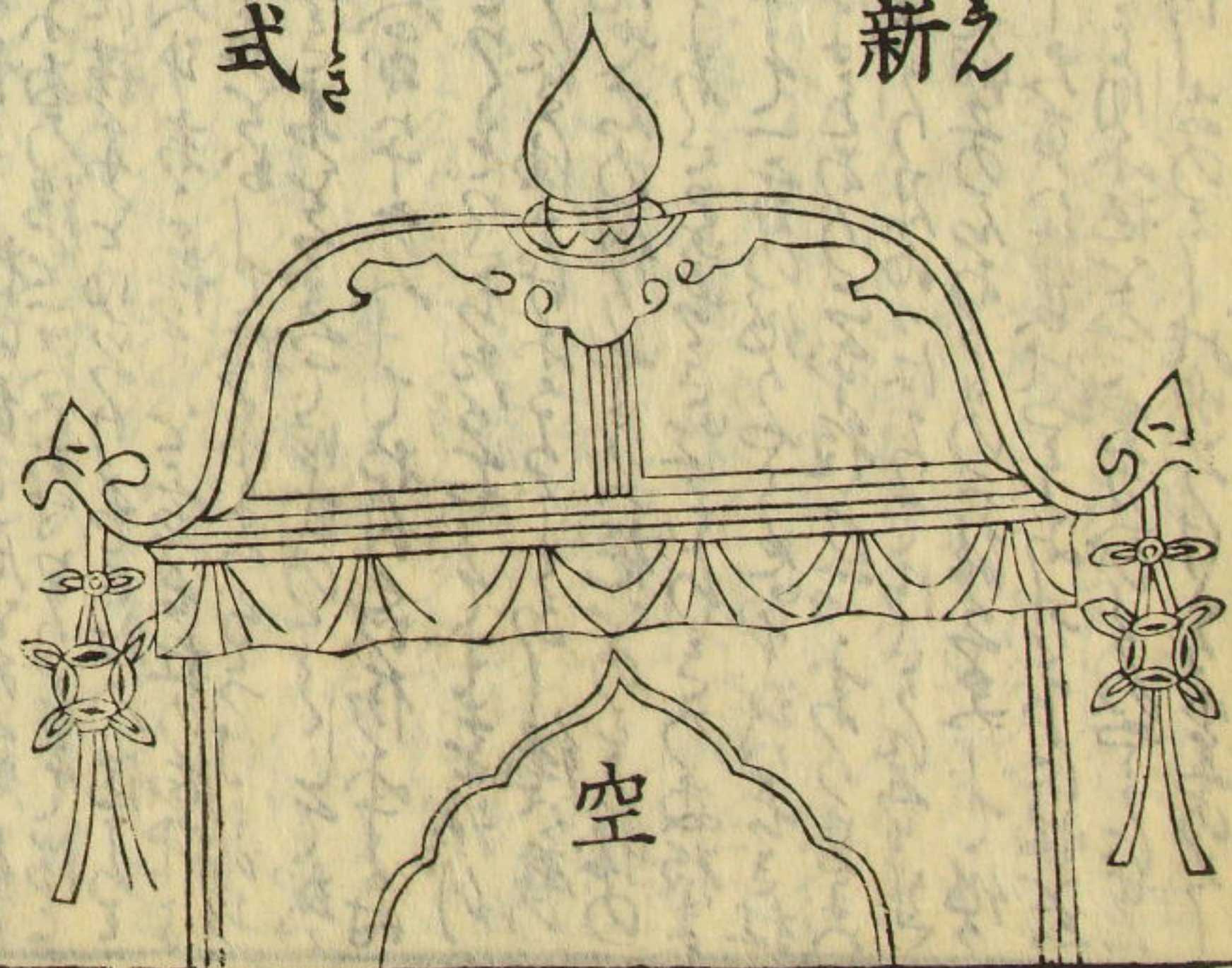
式

舊



式

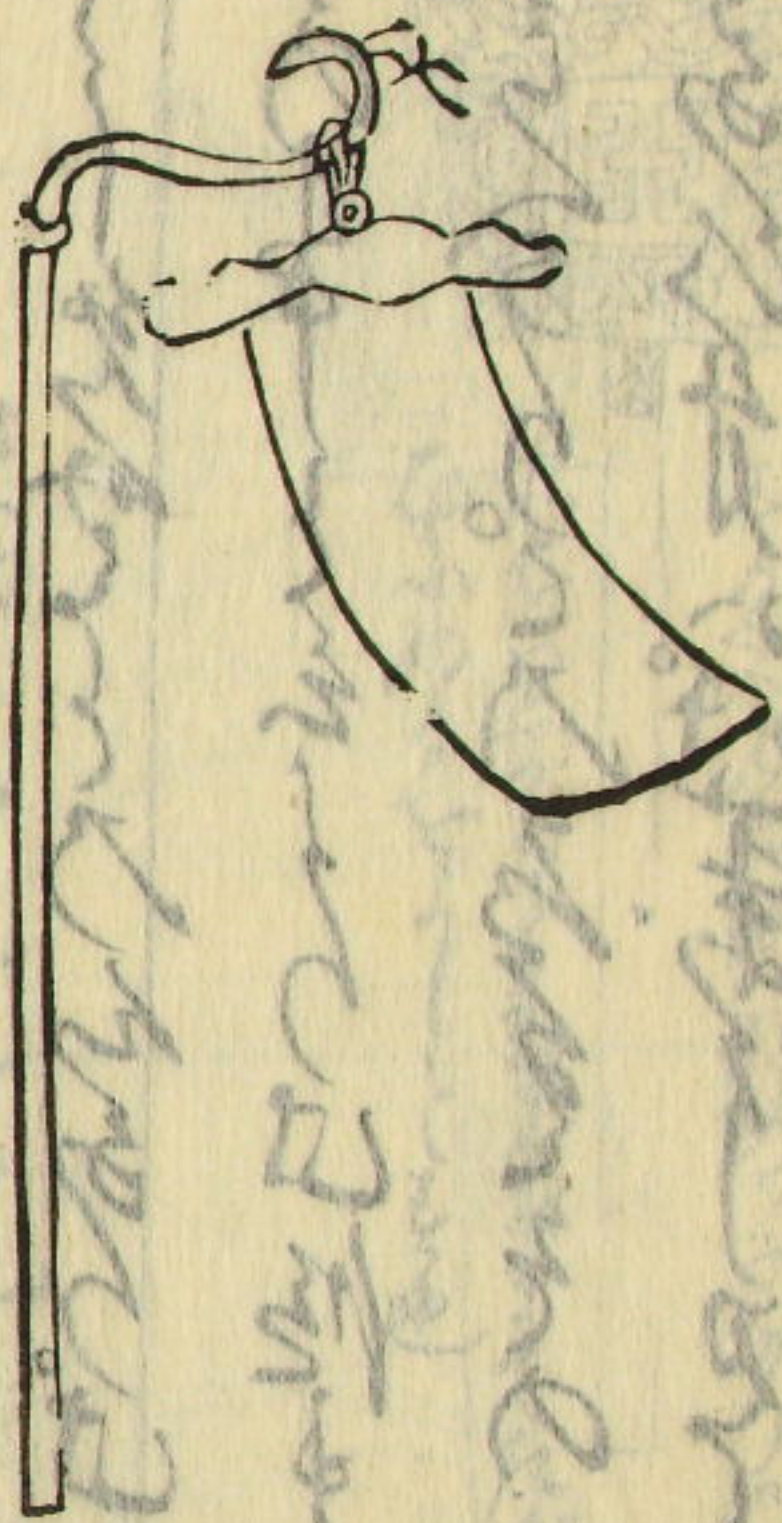
新



大和家礼文

二十一

功 布



白糸の布の指不
まきまのせむひ
てあきせけ
ふちさく三尺柄
のちさくあは
たふへ

第士 柎と雲一袖子柄一真時とまじり
物とつゝ糸袷と綴る事

一柎とらふとていひつこと列のるふも申あり
敷川乃日お日釣魚乃よりえ服乃親

かふまあり。面乃妻柎とゆくして度よまて
笑一。巻中と巻乃あふりつて。袷
多とあひひむさゆりさゆとて。今ひつとて雲
と雲乃うむさつげれねし。主今下衣
とあけられねまゆりつて。袷よ釣とて
いひつとて。つて袷糸とまじり
ひまも也。れかひよらつとて。我一人
さる今。袷とまじりつて。わりの目柎とて
うひつとて。あつてゆへ。袷糸とまじり
糸とまじり。袷乃ゆへ。とて。世よ。あ
せつとて。ひつとて。申あて。そのを

よ祓年ハシと初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 右礼ハシありはひつさる代ハシよりらひて也。
 金ハシれつととつさる代ハシよりらひて也。
 みな祓年ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシつとひつさる代ハシよりらひて也。
 そとて主人ハシと下枝ハシと輯ハシして居ハシる。輯ハシ
 へつととひつさる代ハシよりらひて也。祝ハシ儀ハシ
 廻ハシり初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 早ハシととらてあふ。初ハシ儀ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 とと初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。

ひつあり。男子ハシとる志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 志ハシは初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。
 初ハシとひつさる代ハシよりらひて也。

大和家

七

子中にとる。と送る眞贋と云は。性くも平
わのく方とて送る。い。後日平とていひる。こ。也
ゆ。くれ。眞贋と送る。あり。ある。か。く。は。さ。う。ゆ。い
眞博と送る。は。の。儀。式。あり。と。た。ら。ね。と。送。る。
と。つ。ま。ん。ま。ゆ。と。う。わ。ら。く。は。ひ。つ。ま。い。と。あ。ら。う。
の。乃。く。あ。下。と。う。あ。く。ゆ。ら。半。也。才。一。よ。方
相。才。二。よ。明。是。下。た。る。を。年。よ。の。せ。て。ん
と。界。と。う。う。と。は。の。り。才。三。よ。送。給。守。守。り
豊。年。親。年。香。火。才。六。よ。大。豊。年。大。豊
の。お。布。製。あり。ひ。つ。ま。い。と。あ。ら。う。日。人。よ。と。い
ま。ゆ。あり。と。う。く。い。ま。ゆ。と。い。う。つ。ま。い。送。る。眞

と。後。中。は。送。る。神。眞。と。き。め。あ。ま。あ。く
御。眞。と。あ。あ。も。也。主。人。下。た。よ。あ。て。意
あ。け。祝。と。わ。く。い。ま。ゆ。の。あ。ら。う。と。い。ひ。ゆ
つ。ま。い。と。い。ひ。ゆ。と。う。も。て。ま。ゆ。た。よ。ひ。つ。ひ。く
ひ。つ。ま。い。と。う。つ。て。送。る。よ。あ。ら。う。つ。げ。い。ま。い
く。と。下。笑。し。て。礼。ね。す。う。あり。送。る。よ。あ。ら。う。と
ひ。つ。ま。い。と。あ。ら。う。も。て。家。よ。あ。ら。う。あ。ら。う。と。い
う。ひ。つ。ま。い。と。あ。ら。う。ひ。つ。ま。い。と。送。る。神。眞。と
ふ。ら。う。送。る。利。

才十三 送眞くも
一 送眞くも 送眞くも 送眞くも

大和歌集

廿四

香象と称す也。其の役事として界せ人
以下男の女は柩の傍に居りて哭し
境ありて幼あり。門と出家とに白と幕
して障あり。つとより長杖を杖し。其
乃親親つとより地人の葬に之の先
ありし軍ありし。其の先ありし。其の先
又いふ。其の先ありし。其の先ありし。
あり。つとより親親と云ふ。其の先ありし。
いふ。其の先ありし。其の先ありし。
と云ふ。其の先ありし。其の先ありし。
と云ふ。其の先ありし。其の先ありし。

方相の相 圖

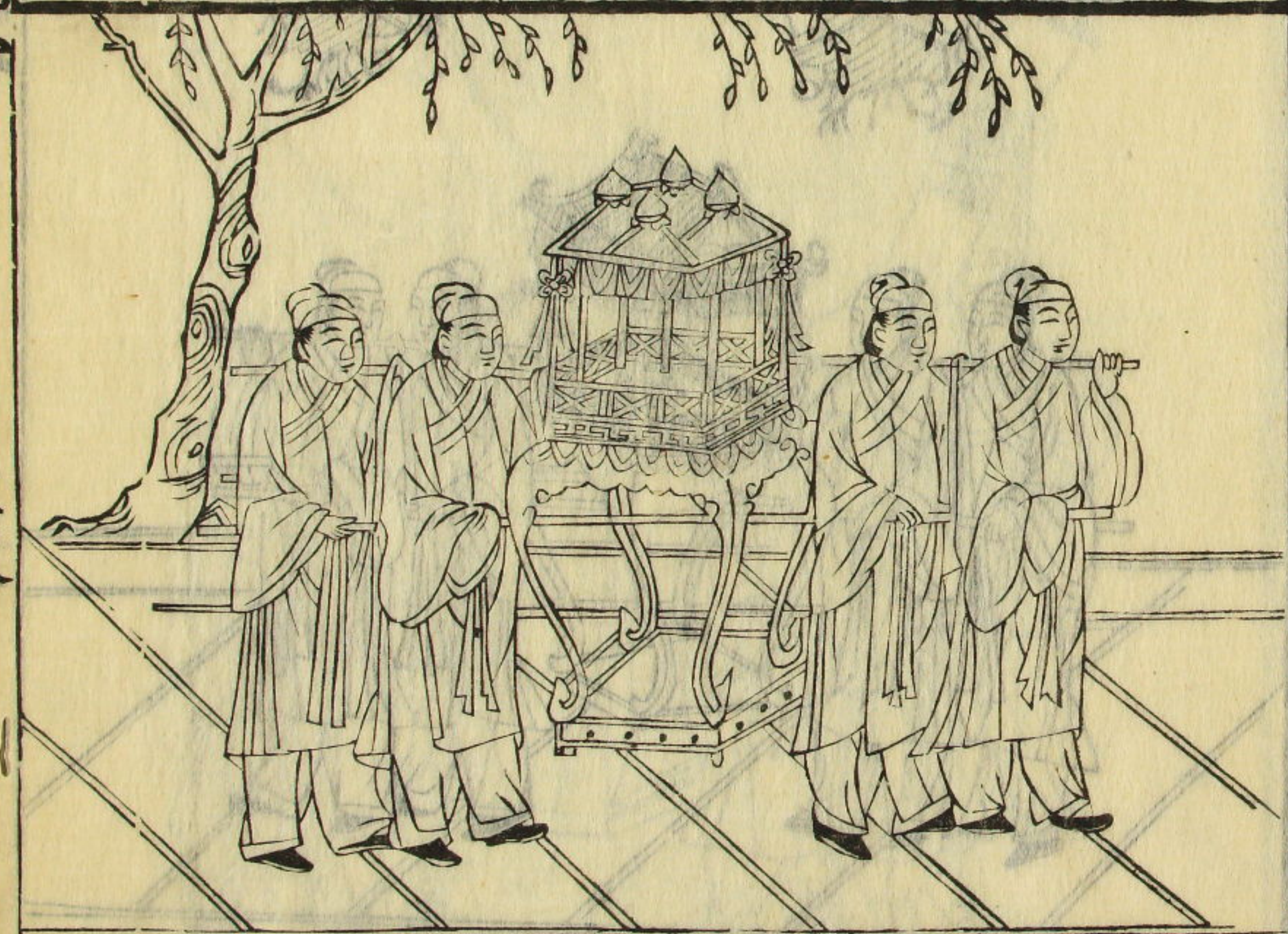


あり。其の先ありし。其の先ありし。
哭す。其の先ありし。其の先ありし。
皆柩の傍に居りて哭す。其の先ありし。
有官者用之

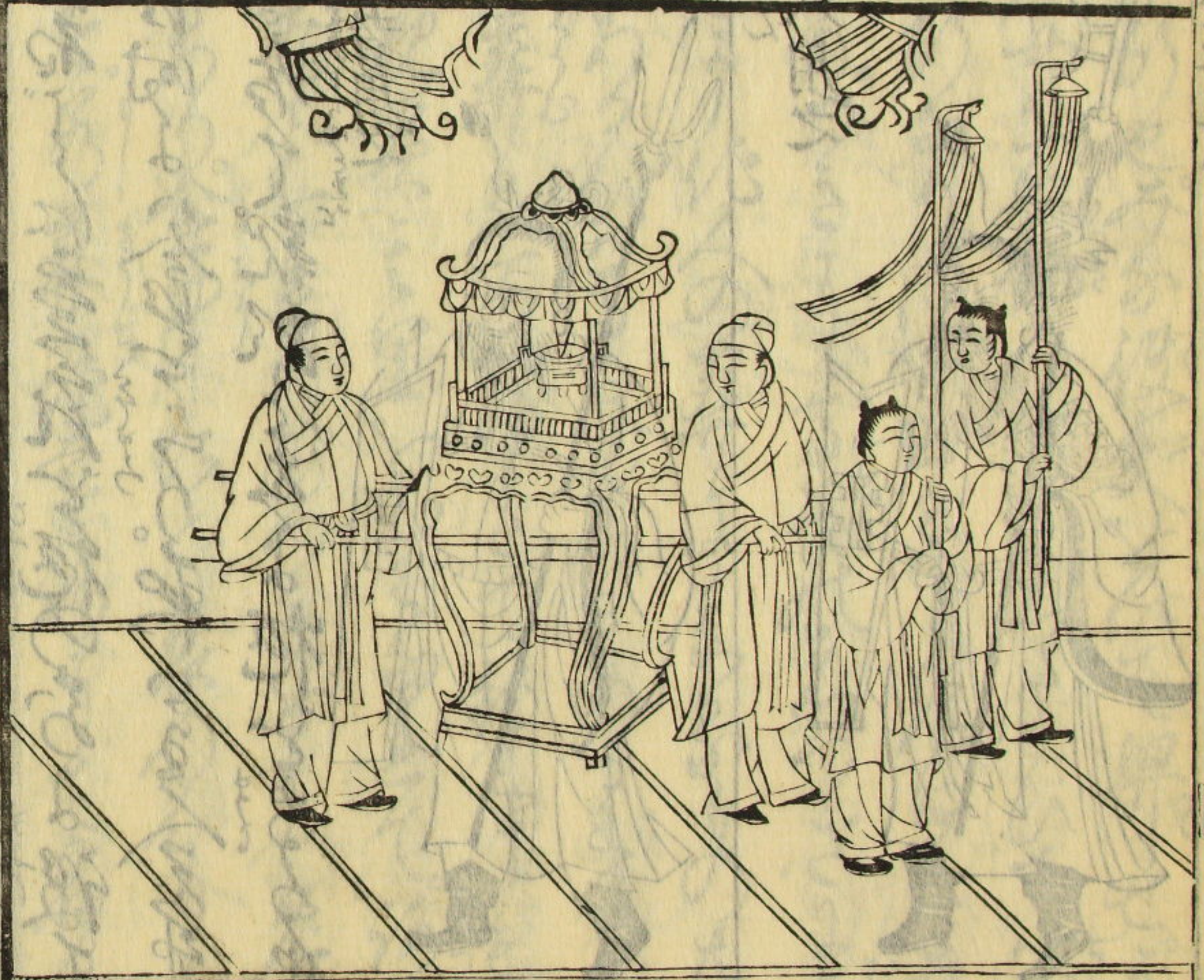
大に...

...

明器の圖



香案の圖



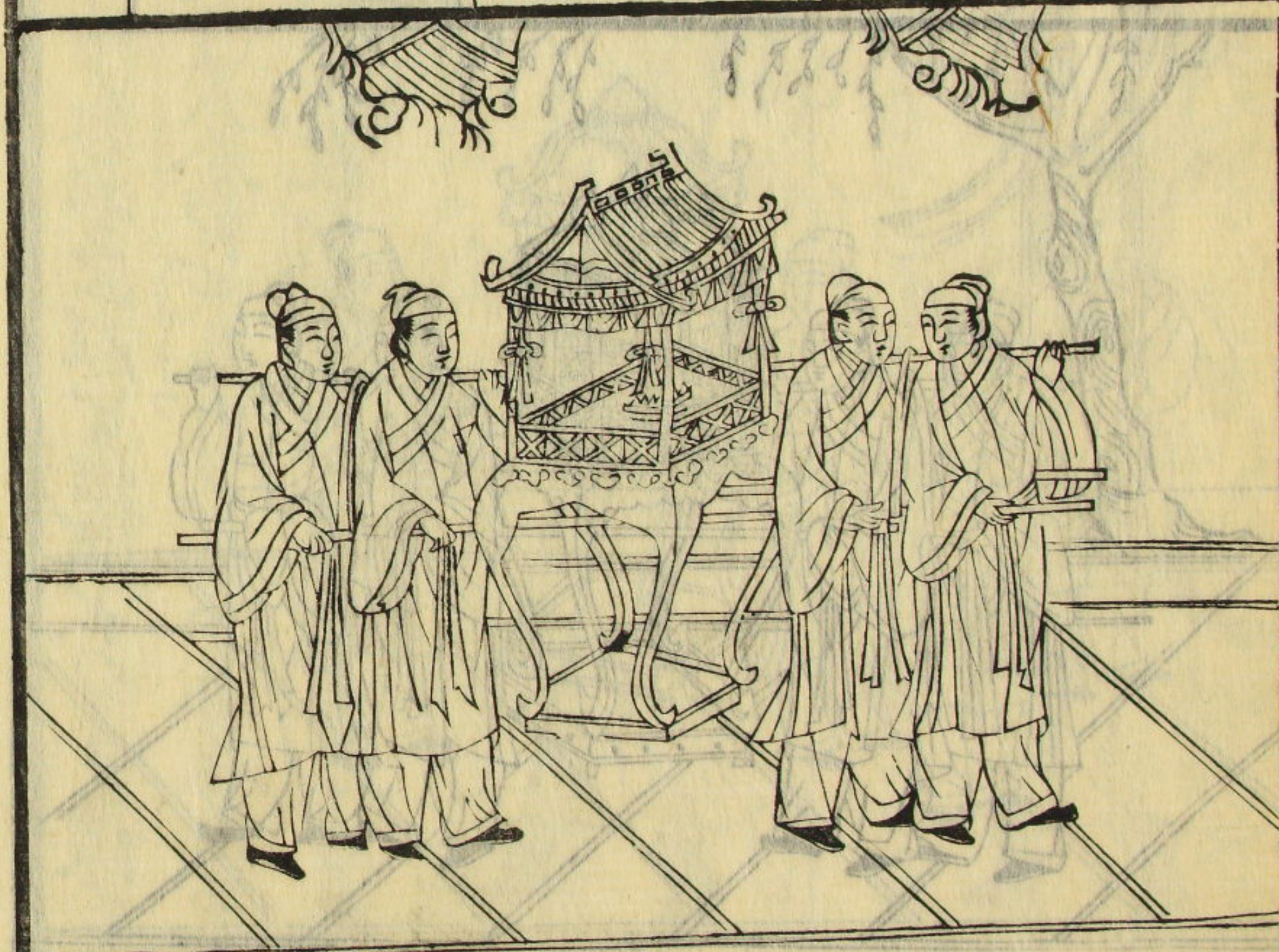
靈まじ車の圖づ



大和歌行

十九

食まじ案の圖づ



大和歌行

二十

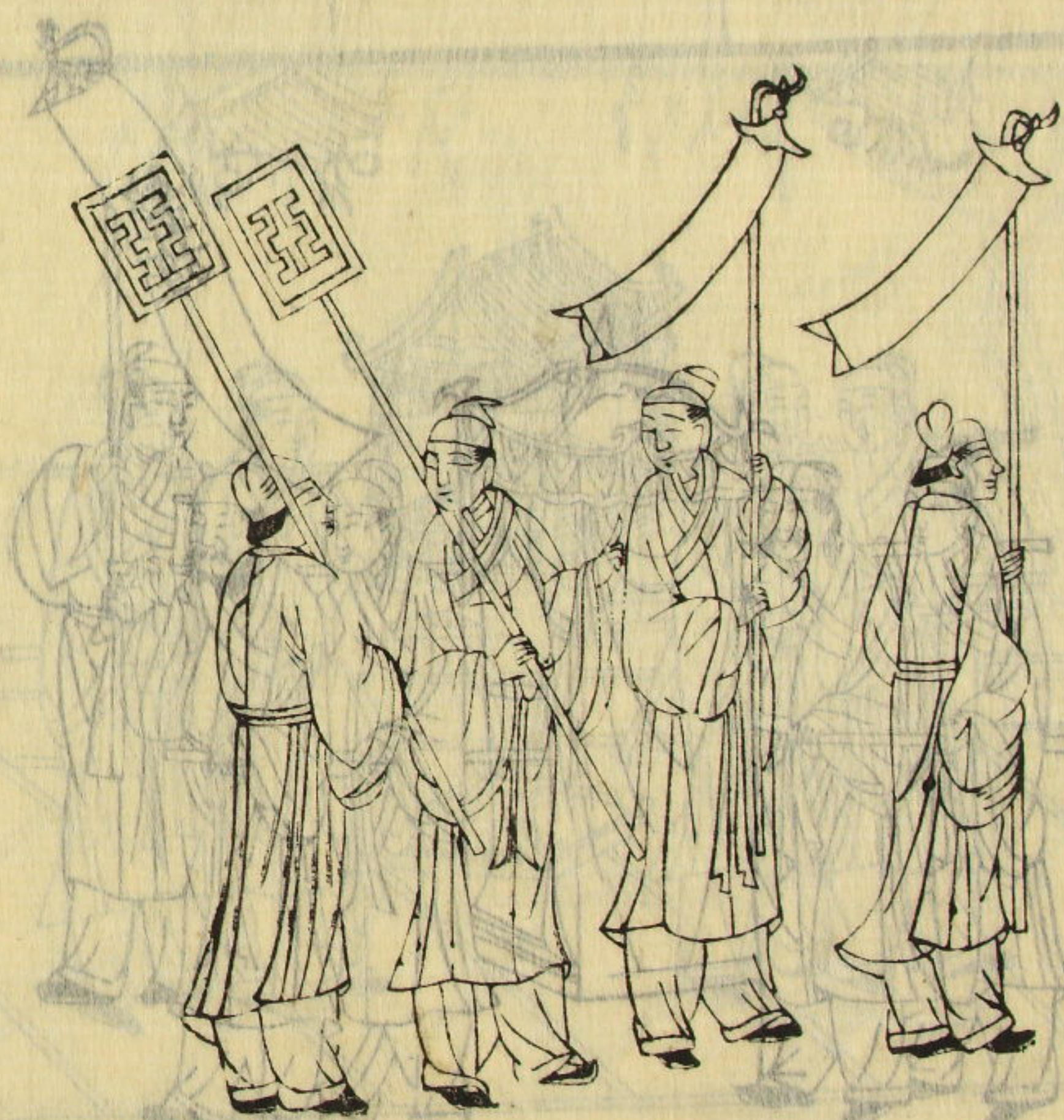
發はつ 柩ひつぎ 圖づ



大和家礼

三十一

功こう 布ふ 嬰えい



大和家礼

三十二

の類と鬼車きいぐるまのうらうらとした眞とひつきの
まへ云々産らうはゆあもてありぞとつてさう極
つゝ家いえ根車ねぐるまのま先しんせん磨くと擴ひら乃あよまゝて極
と成なりて少すく首くびみ。紹雍しやういんとあり。跼まとあゝさて
。紹雍しやういんがり極ごく乃のとよとよと。まへ今下男げなんの擴ひらあな
りまやむいひ婦人ふじんの擴ひらの太極たいく乃の内うちよきてん
小こじうひみかう一海かいとよと。はよき舞まい礼らいりまへん
極ごく乃のまへつとつとて喜かとわげてれね。まへ今いま
祥さむらい氣き一してふふつとよ。役やく志し本ほんと座ざ福ふく乃のとり
うとえまへ今下男げなんと極ごく乃のとひつとひ。極ごくと
灰はい福ふく乃のととよと。大系たいけい守まもめとひつとつと座ざの

新編雑記

二七

際わきりと極ごく乃のとつとつと。座ざ福ふく乃のとよとまま
本ほん乃のとよとつと。却がへり布ぬの或あるは縮ちぢたんと
とつとひつとつと座ざ福ふく乃のとひつとつと。も布ぬのとつと
おきだ。解あふりりるとつとつと。也やびりつとつと
ふとつとふは換か下したたつとつと。やとよとよと。ゆあお
あまのあまは。極ごく座ざ福ふく乃のとつとつと。紹雍しやういんと
へあ也やびつとつと古ふるへまへ今下男げなん乃のためとよと。紹雍しやういん
とまよ物もの縮ちぢのたつとつと。よの擴ひらの中なかへ今下男げなんあ
つと。まは息いきを色いろれ縮ちぢ乃の紹雍しやういんは浅紅せんこう色いろ乃の縮ちぢの類るい
あり。まよと紹雍しやういんとつとつと。也やとつと一丈八尺いちじょうはちせきどの
世よ乃の縮ちぢ子こあ。世よ乃の物もののあら。はとつとつと。あはひ

新編雑記

二七

粉とよめりありがしめよと。主権とよめ
 ありてらうりうばいお全権持玉乃る色持
 り入りの舞也。死な乃た死すも其ともい
 主人の権と極乃るさうりうとて。存よとて
 一と笑し。これね。首と地よつけと。喜と
 て。あり。此は。伏満肉乃る蓋ととら也。先
 乃大少とるをうい。う。先。灰満と修り付
 築ととて。さう。塙とわら。板一枚と初
 わせて。極乃る。油を灰とてわり。あ
 松脂ととて。あ。け。さ。り。を。と。て。

板よ。あ。ら。う。も。う。ふ。一。右。さ。と。す。針。と。さ。り。
 一。外。の。蓋。と。う。り。あ。や。げ。に。沙。木。を。右。灰。の
 二。物。と。下。ふ。と。と。炭。の。粉。と。と。よ。と。厚。さ。と。
 四。方。の。厚。さ。と。一。倍。入。て。ほ。と。と。と。と。と。と。
 さ。ら。け。て。か。く。と。あ。り。う。う。と。は。と。は。極。の。内
 震。動。す。る。ゆ。へ。右。乃。空。物。と。わ。り。入。て。あ。り。
 二。ひ。り。り。は。ま。ま。の。ま。と。入。て。二。尺。外。と。つ。り。
 そ。ろ。く。つ。き。は。右。乃。種。と。基。乃。乃。の。あ。み
 て。初。り。也。右。乃。初。り。や。う。は。は。を。活。葬。の。部
 中。七。段。の。見。と。う。り。う。と。入。り。中。に。あ。り。
 二。と。明。黒。下。帳。巻。管。月。圓。と。は。り。乃。と。あ。り。

従文よりんおつりてのらあさうらよへてうかめしあり
あつひの禁トキとらつともあつも。まふ下下礼ね一突
て意とあし。まふもくに題するまふよ礼とすふ
とま。まふにむするものも。む礼とらふやまふにむ
あつり従文び後乃おつりふあふと也。はなご
後神ミコと車クルマふのまゆ也。亮亮常一の後神ミコと
乃ナリ後ノチとあり。後乃ノチ後乃ノチの志ココロとあり
のちて。まふもつらつまも。まふもつらつまも。
まは右。まふまの志ココロはまふもつらつまも。まふ
はなご。まふもつらつまも。まふもつらつまも。
うめり。あつひのらあさうらよへてうかめしあり

あつひのらあさうらよへてうかめしあり
墓ツツミ地チよふとこと。傍ナリとつらつまも。まふも
あつひのらあさうらよへてうかめしあり
わげて墓ツツミの志ココロはまふもつらつまも。
り小石コイシ碑イハとまふもつらつまも。まふもつらつまも。
あつひのらあさうらよへてうかめしあり
あつひのらあさうらよへてうかめしあり
あつひのらあさうらよへてうかめしあり
あつひのらあさうらよへてうかめしあり
あつひのらあさうらよへてうかめしあり

祝文
非

〇〇年。歲次月朔日辰。孤子某敢昭告
于

某官封疆府志刑均定冥神延官堂神主

既成伏惟

尊聖人舍舊田從新是憑是依

才十六 反哭（い）

一及哭之は家事多うのそと哭する事也。主人下
尊軍とてとくもくやうかした金中よりしてと
哀りしやとてとくは哭し家よりてふとれれ我
門とてんけと哭するあり。視事乃志意を
収りてありまうけ。後神主よりして入雲丸の

よりとてとくは免帛此とて初して神主
乃極よとて神主ハ横入り入あやまふ下門
よりやうんを哭してうらふ入哭し。尊軍の前
ふつらぬ哭して哀とてあし。出あり。尊軍の前
ちつむのまはば。ちつむひとけき。神といふ事。そ
ド先んちつむとてとくは免帛此とて初して神主
九月の妻ハ。海とのも肉とてとくは。尊軍の前
り。海づつむ。少功ら下あり。ひは。大物うても
が家より。尊軍前。親親ハ。面より家よ。海も也。

一白虎通（白虎通）よきけりなは金葬（金葬）の夫婦（夫婦）乃及（乃及）と書
 じうと書いりねばいけりなは結縁（結縁）よきけりなは較（較）
 きは家（家）を別（別）めり。死（死）をいふにありて同じを
 としつ。又檀弓（檀弓）にけりなは金葬（金葬）の古
 の及（及）りありて用（用）乃代（乃代）りてり。これねとあり
 たじうと書いり用（用）ゆつとあり。金葬（金葬）と云ふ。一皮
 してと又けりていふ。夫婦（夫婦）を同じく撰（撰）ぶ金（金）を
 葬（葬）ふ事（事）とつあり。
 一た傳（傳）ふにけりなは公孫（公孫）家（家）といふ事（事）と云ふ事（事）と云ふ事（事）

一は。ひらきとありていふ家（家）のよきけりなは
 實（實）歟（歟）乃新（乃新）と云ふ事（事）はけりなは撰（撰）ぶと撰（撰）ぶ
 と云。撰（撰）ぶと云ふ事（事）は。今（今）乃世（乃世）といふ事（事）の
 あり。つらつとありていふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）
 事（事）ありていふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）
 事（事）ありていふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）
 事（事）ありていふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）は。撰（撰）ぶと云ふ事（事）

谷

七

Handwritten marks on the left edge of the left page, including a large '3' and other illegible characters.

Handwritten text in a rectangular frame on the right page, written in a cursive script. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect.

Vertical handwritten notes on the right edge of the right page, including a large '8' and other illegible characters.

